

2018年3月期 第1四半期 説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

2017年8月9日

市場環境認識と高松コンストラクショングループの成長イメージ

環境認識

プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円を上回る水準が3年は持続すると見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を継続、新築住宅着工も好調持続を予想。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴う原価の上昇トレンド。
- 賃貸マンション需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしばむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。



高松コンストラクショングループとしての成長イメージ

1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指す。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指す。
3. 上記が実現できる経営基盤も整備。

業績(連結)の推移

1. 受注高:対前期+2.0%の増加。順調に推移。
2. 売上高:対前期+14.7%の大幅アップ。6期連続増収、5期連続過去最高の第1四半期。
3. 営業利益:5期連続増益、4期連続過去最高の第1四半期。
4. 純利益:特別損失の減少、法人税等の減少 および青木あすなろ建設の自社株買いに伴う非支配株主純利益の減少により、純利益額は対前期30.9%増加で3期連続増益の第1四半期。

項目 (単位:億円)	2017/3期 Q1		2018/3期 Q1	増減率(%)
受注高	679	↑	693	2.0%
売上高	458	↑	525	14.7%
売上総利益 (売上総利益率)	60 (13.2%)	↑	65 (12.5%)	8.7%
営業利益 (営業利益率)	19 (4.2%)	↑	19 (3.8%)	2.7%
経常利益 (経常利益率)	19 (4.3%)	↑	20 (3.8%)	2.0%
親会社株主帰属四半期純利益 (四半期純利益率)	8 (1.8%)	↑	10 (2.0%)	30.9%

グループ別 受注高・売上高・売上総利益（連結）

1. 受注高は2.0%増の693億円、土木＝青木あすなる建設Gの伸びが大。
2. 売上高も14.7%増の525億円。土木は青木あすなる建設G好調で11%増、建築は高松建設G好調で19%増。
3. 営業利益は2.7%の増。建築は前期の高採算案件等の影響で反動減も、土木は売上増により52%の大幅増益。

高松コンストラクショングループ

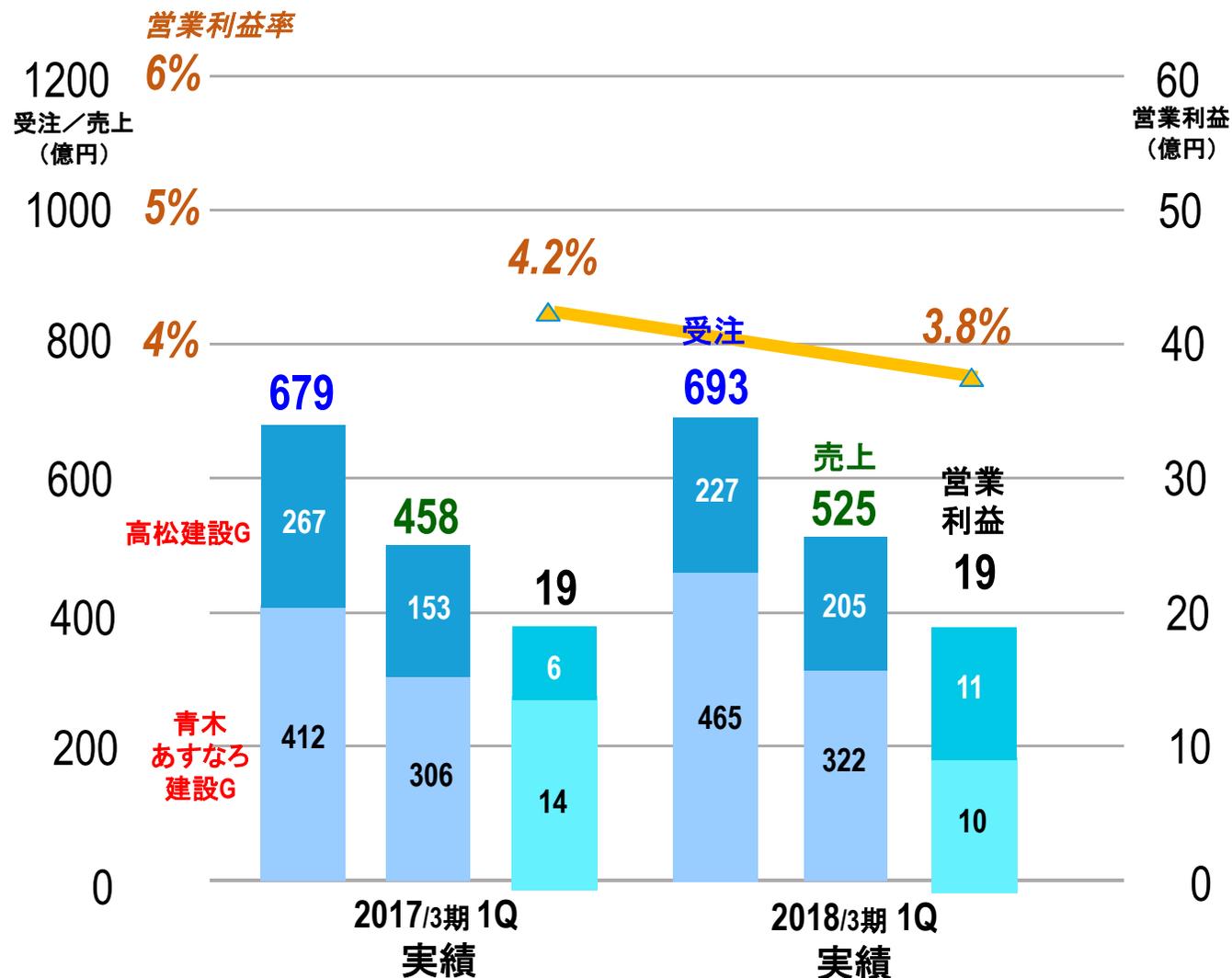
高松建設グループ

青木あすなる建設グループ

高松建設グループ		青木あすなる建設グループ		高松コンストラクショングループ		受注高	売上高	営業利益
高松建設	高松テクノサービス	住之江工業	J.P.ホーム	金剛組	中村社寺	17/6 (16/6)	17/6 (16/6)	17/6 (16/6)
高松テクノサービス(大阪)	高松テクノサービス(東京)	高松テクノサービス(東京)	高松エステート(大阪)	高松エステート(東京)	高松			
青木マリーン	青木建設工業	みらい建設	アクセス	島田組	新潟みらい建設	372 (289)	222 (199)	7 (4)
東興	シオテック	あすなる道路	青木あすなる建設			+28%	+11%	+52%
土木								
建築						288 (359)	271 (227)	17 (17)
						△20%	+19%	△1%
不動産						32 (30)	32 (30)	1 (3)
						+7%	+7%	△47%
受注高	227 17/6 (267)	△15%	465 (412)	+13%	693 (679)	+2.0%		
売上高	205 17/6 (153)	+34%	322 (306)	+5%	525 (458)	+14.7%		
営業利益	11 17/6 (6)	+63%	10 (14)	△24%	19 (19)	+2.7%		

グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移（連結）

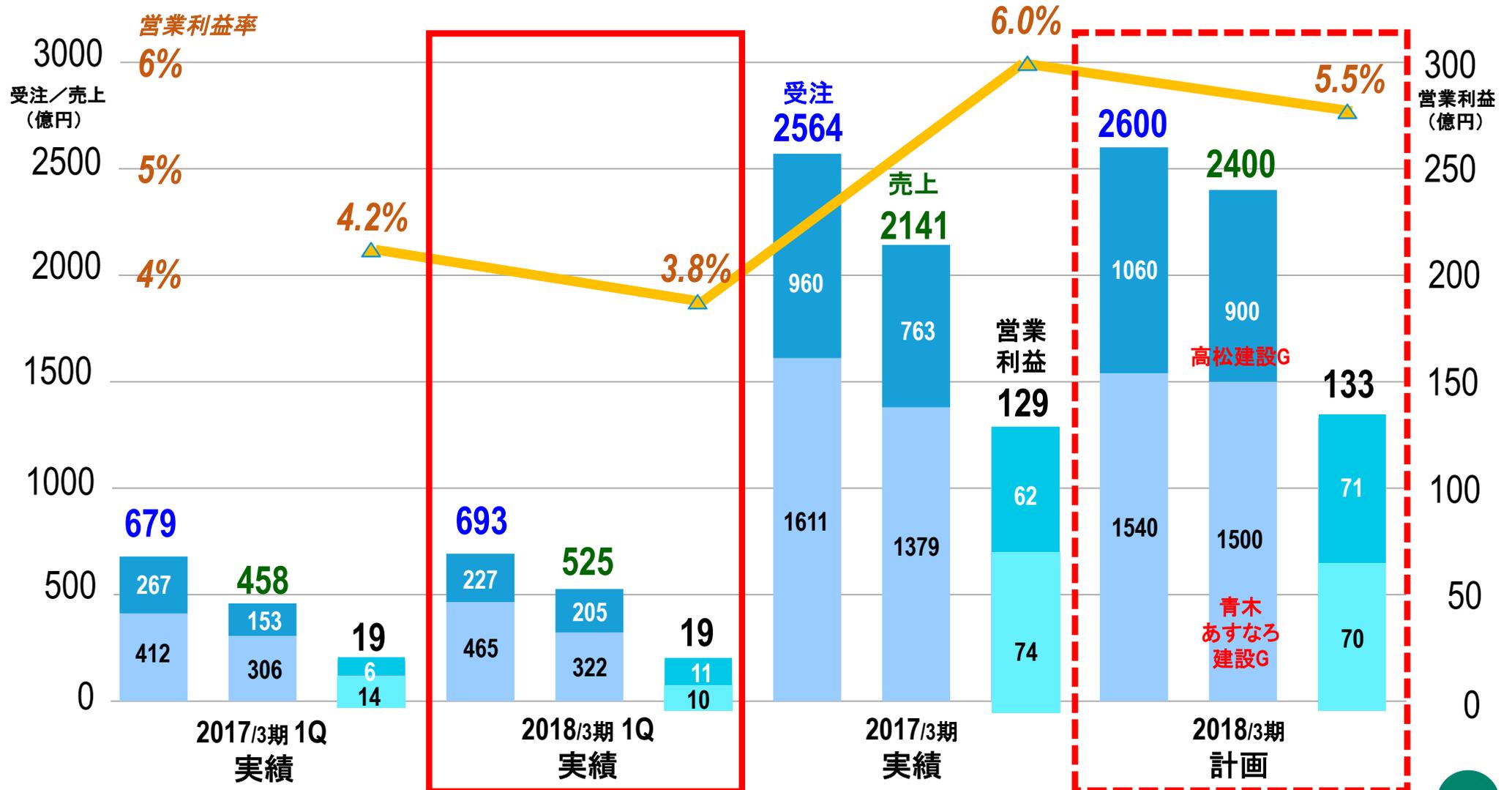
1. 受注は高松建設Gは前年割れしたが、前年度受注に大型案件があったため。対計画では両Gとも順調。
2. 売上高は両Gとも前年比増、順調に推移。
3. 営業利益は前年実績を0.5億円(+2.7%)上回った。
4. 営業利益率は前年実績の4.2%を0.4pt下回る3.8%。



単位：億円。 管理部門費等があるため、営業利益のセグメント・グループごとの合算値は全社合計と一致しない。

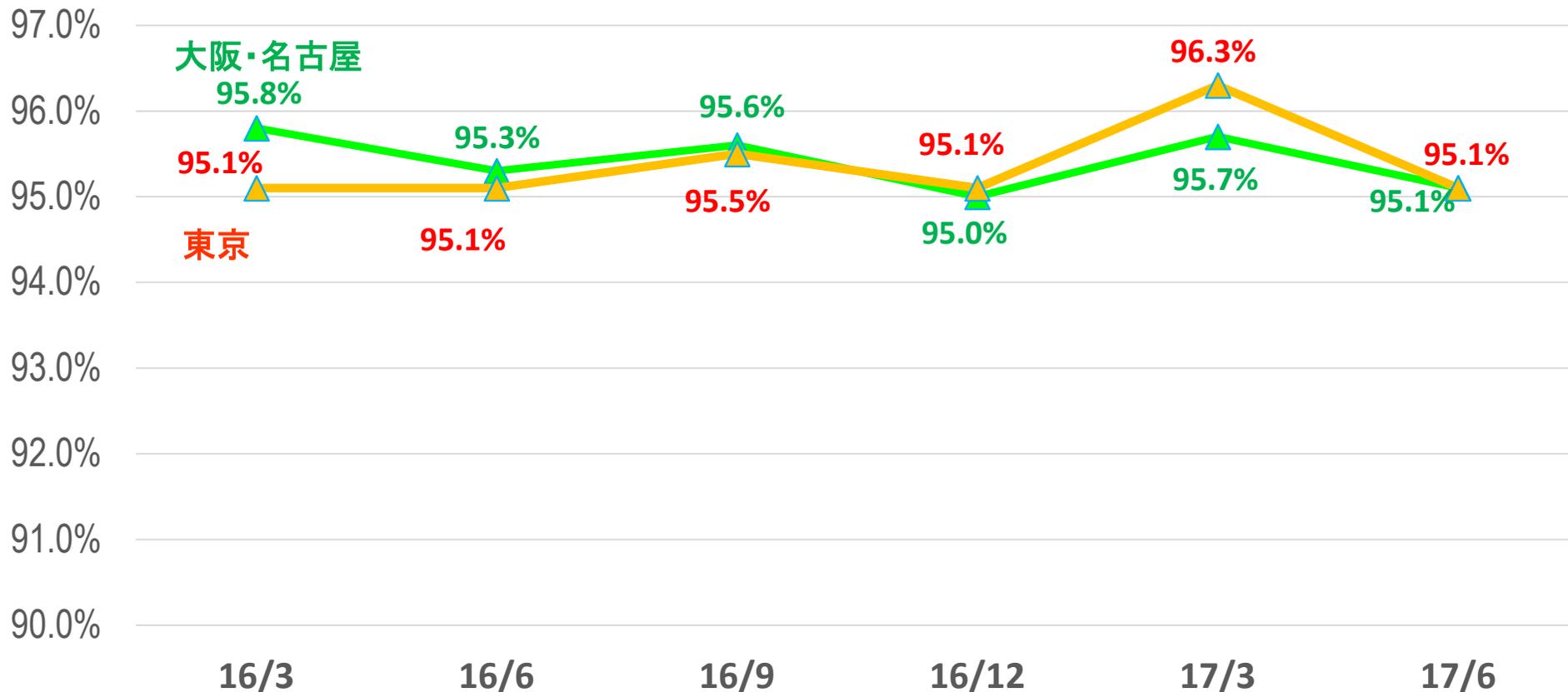
グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移と見通し（連結）

1. 受注高・売上高・営業利益ともに順調に推移しており、通年の受注2,600億円、売上2,400億円、営業利益133億円は達成できる見通し。



高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は95%以上を維持している。



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市
「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
「入居率」=各四半期末時点の高松建設施工物件の入居戸数
÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が
管理している高松建設施工物件の総戸数